

# 秋建時報

<http://www.a-kenkyo.or.jp>

秋建時報

平成25年9月1日(第1232号)



発行／(社)秋田県建設業協会

秋田市山王四丁目3番10号

TEL 018(823)5495

FAX 018(865)2306

協会・技士会

## 県工事施工の33社に栄誉

### 秋田県優良工事表彰祝賀会

一般社団法人秋田県建設業協会(村岡淑郎会長)と秋田県土木施工管理技士会(北林一成会長)は8月23日、秋田キャッスルホテルにおいて同日行われた秋田県優良工事表彰式における受賞企業及び技術者を招いて受賞祝賀会を催した。

今年度の優良工事表彰においては、29件の工事を施工の33社が受賞。祝賀会においては、技士会会員の技術者28名に表彰状及び記念品、企業33社に対して表彰盾を贈呈した。

また、祝賀会においては、秋田県から堀井副知事、富田建設部長を始め多数の来賓が来場し、受賞者に対して祝辞が送られた。

今年度の受賞者は次のとおり。

小坂建設(株)	現場代理人	熊田春光
(株)石川組	現場代理人	佐藤規之
(株)佐藤庫組	現場代理人	簾内哲哉
秋田土建(株)	現場代理人	園部信悦
(株)宮原組	現場代理人	瀧澤龍也
白川建設(株)	主任技術者	高橋信男
佐藤吉(株)	現場代理人	北林勝彦
(株)サンワ興建	現場代理人	出雲孝平
(株)サンワ興建	主任技術者	高田 博
成田建設(株)	主任技術者	大村富士夫
大森建設(株)	現場代理人	三上 満
大高建設(株)	主任技術者	後藤 忠
高田住宅工業(株)	主任技術者	佐藤重明
(株)コンノ土木	現場代理人	松岡芳之
小玉建設(株)	現場代理人	伊藤金美
大森建設(株)	現場代理人	信太廣司
(株)加藤建設	現場代理人	藤岡 孝
(株)大雄建設	現場代理人	安田喜美秋
(株)板橋組	現場代理人	畠山一也
(株)菅与組	現場代理人	松田 猛

山科建設(株)	現場代理人	池田雄大
(株)沢木組	監理技術者	佐藤広志
(株)三浦組	現場代理人	齋藤聖司
高禮建設(株)	現場代理人	藤城政信
(株)藤村組	現場代理人	佐藤義正
(株)佐藤建設	現場代理人	高橋未来大
(株)丸茂組	現場代理人	照井 基
大曲土建(株)	現場代理人	菅原義弥
(株)村岡組	監理技術者	藤原和美
伊藤建設工業(株)	現場代理人	杉山幸一
(株)吉田建設	現場代理人	土田雅登
(株)高嶋組	現場代理人	柴田正彦
(株)和賀組	現場代理人	柴田利美
(株)柴田ボイラ工業	現場代理人	柴田恒広



# 建設系高校生の就業支援

## 小型車両系建設機械（整地等）特別教育を実施

秋田県建設業協会は7月中旬から8月上旬にかけて、建設系高校生への就業支援などを目的とした小型車両系建設機械（整地・運搬・積み込み及び掘削用）の特別教育を実施した。

教育は建災防秋田県支部が協会から委託を受けて実施し、県内の高校9校から土木・建築等学科の生徒延べ128名が受講した。

教育は2日間のカリキュラムで、1日目は各地域において学科教育、2日目は建災防教育講習所（秋田市上北手御所野地内）に場所を移して実技教育を実施。

実技教育では、ホイールローダーと油圧ショベルの2機種に受講生が交代で搭乗して、講師の指導のもと、走行・掘削等の実習を行った。参加した生徒は、慣れない重機の操作に苦労しながらも安全に作業を進め、全員が無事に2日間の教育を修了した。



### [実施日程・参加校]

7月22日・23日 秋田工業高校、由利工業高校  
(学科会場: 秋田県建設業会館)

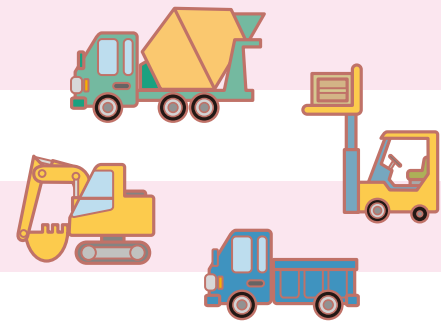
7月24日・25日 横手青陵学院高校  
(学科会場: 横手青陵学院高校)

7月29日・30日 大曲工業高校  
(学科会場: 地域交流センター はびねす大仙)

8月1日・2日 男鹿工業高校、西目高校  
(学科会場: 秋田県建設業会館)

8月5日・6日 大館工業高校  
(学科会場: 大館労働福社会館)

8月7日・8日 能代工業高校、金足農業高校  
(学科会場: 能代工業団地交流会館)



# 秋田・鉄路の情景

Vol.  
11

## 「小入川のお立ち台」

JR五能線小入川鉄橋



文と写真／加藤隆悦

フリーカメラマン兼フリーライター  
取材・執筆歴／旅の手帖、WoodyLife、  
ベンチャー・リンク、癒、ある他  
海外取材歴／ドイツ、アメリカ、ブラジル  
写真塾・写楽 主宰／写真教室、撮影ツアー  
企画等

昨今は、鉄道ブームがやや過熱気味ではないだろうか。筆者のように子どもの頃からの“鉄道好き”にとっては、鉄道に興味を持つ人が増えるのは嬉しいことなのだが、その一方で、SLなどの人気列車が走る撮影スポットではアマチュアの鉄道カメラマンが集まりすぎて、空気がピリピリして罵声が飛び交ったり、人様の畑に無断で立ち入ってカメラを構えるなど非常識な行動をとる者も現われるようになった。鉄道趣味が社会的に認知されるように、くれぐれも節度は守っていただきたいものである。

鉄道写真の人気撮影スポットを、鉄道ファンの間では“お立ち台”と呼んでいる。秋田県内の人気お立ち台の一つが、JR五能線のあきた白神駅と岩館駅の間にある小入川鉄橋だ。海辺の集落の頭上にかかる鉄橋を人気列車「リゾートしらかみ」が行き交い、その向こうに日本海の水平線が眺められる。実に“絵になる”鉄道風景が広がっているのだ。

小入川鉄橋に並行するように国道101号が走り、その国道橋の上から鉄橋を渡る列車を撮るのが古くからの定番であった。

この国道橋のたもとに、今年4月に乗用車10台ほどを止められる駐車スペースが出来た。秋田県が整備したものようだ。周辺には道の駅などもあるから、ここに新規に駐車スペースを設ける必然性は特にない。これはもう、“撮り鉄”のために県がつくってくれた駐車スペースに他ならないのだ。

これまで小入川鉄橋の写真撮る時は路肩駐車するしかなかったから、鉄道ファンとしては本当にありがたい。そこまで鉄道趣味が社会的に認知されてきたものと解釈するべきだろうか。(あるいは、県庁の中になんかの“鉄道マニア”がいたとか…)

いずれにしろ、小入川のお立ち台での撮影はとてもしやすくなった。鉄道写真には興味がないという人でも、一度撮ってみると夢中になる人が多い。確かにそれは、“風景写真”の一部でもあろうから。小入川のお立ち台、ぜひ一度お出かけいただきたいものである。

## 例えば、大沢郷。

### あゆかわのぼる

『大沢郷』という所はかなり前から気になっていた。大曲以南に出掛ける時は出羽グリーンロードを車で走る。走ると必ず大沢郷をかする。正式には大仙市大沢郷といい、旧西仙北町の一部。そばに最近あまりその名を聞かなくなった『強首温泉』がある。その大沢郷に『宿』という集落がある。この名にも興味を持っていた。“ヤド”なのか“シュク”と称ぶのか分からないが、何となく“宿場町”を想像させる。その昔、ここらあたりに街道があって、侍あるいは渡世人、商人や旅芸人が往来し、そういう人達を泊める旅籠が並び、飯盛り女がいて、などと考えると、ちょっと胸がときめいた。

ここには『雄清水・雌清水』という毎分500Lも湧き出る水場があって、そこには時々寄って4Lボトルに汲んできて、ウイスキーや焼酎の水割りやロックを飲んでいるが、そのいにしえに遡る気持ちを行動に移さぬままに過ごしていた。くされたまぐらなのひゃみこぎの面目躍如だ。

それが3年前、地元の中学校のPTAから声が掛かって話に行った時、大沢郷を紹介する4つ折のパンフレットをもらい、ひろげてみると、そこにやっぱり街道があった。『旧亀田街道』といい、由利の松が崎から亀田経由で羽州街道に出る道で、亀田藩の殿様が参勤交代の折にその街道を通ったという。大沢郷は秋田藩との藩境に位置し、紛争に巻き込まれ、亀田藩が負ければ秋田藩に、勝てば亀田藩に戻るという事がよくあったらしいが、基本的には亀田藩。当時この人々はこの街道を通って亀田の城下町に買い物に行ったという。『宿』はしたがって“シュク”。

そういう環境だったからだろう。大沢郷地区はじかみざわの椒沢集落には古い歴史を持つ番楽・獅子舞があって、『椒沢番楽・獅子舞』という。いわゆる本海流番楽・獅子舞で、これは鳥海山で修行した本海坊が夏場は山中に籠もり、冬は降りてきて麓の集落の長男に教えたのがそれ。鳥海山の麓の集落には20前後の獅子頭があり、これはたぶん世界一。椒沢番楽・獅子舞は、その亀田街道を通ってきてこの集落に定着したのだろう。

その他、歴史上の有名な人物がいて、宇都宮15万石本多正純。徳川家康の懐刀といわれた人らしいが、何か身に覚えのない咎で佐竹家に預けられ、その時、半年ほど大沢郷に身を置いた。その場所も史跡になっている。

これらすべて、4つ折パンフレットの受け売り。歴史音痴の私は、気になりながらもそのまま深入りせず、時々水汲みに立ち寄るだけの数年を過ごした。

そんな今年の初夏、虫の知らせがあった。7月21日、角館に用事があるて行く途中、全く何の意識もなくグリーンロードを走り、方向は全く違う雄清水・雌清水に向かっていった。行って見たらたっくさんの人ばかりで、何か神事のような儀式が行われていた。聞くと今日は清水祭りだそうだ。数軒の露店が賑わい、岩魚の掴み獲り、カラオケ大会もある賑々しさ。私はしばらく楽しんだ。

その時ふと思い付いたのが椒沢の番楽・獅子舞。その集落がどこにあるのか知らないで、祭りにきていた人に訊くと、目と鼻の先。

椒沢集落は、出羽グリーンロードから少し逸れたところに静かなたたずまいを見せていた。田圃の畔の草刈りをしている老人に訊くと、数年前から番楽はやらなくなった。理由は過疎と高齢化。若者がいない。しかし獅子舞は8月14日にやる。是非見にきてほしい、と言われ、その夜、聞き覚えのない声の男性からの電話。獅子舞の責任者で14日の件詳しく教えてくれ、当日早速出掛けた。獅子舞は早朝8時半から始まる。集落の小さな社にまず奉納され、やがて集落全戸を、五穀豊穰、家内安全を祈願して夜の9時頃まで回る。そんな大集落とも思えないと訝ったら、一軒一軒座敷に上がって舞い、舞い終わると酒肴が出て、小宴会。何か所か、集落の重鎮の家では本格宴会。これでは夜まで掛かると思ったら、終盤は舞いと酒肴でへとへとへべレケになり、

「果たして御利益があるかどうか」、と長老が笑う。私はこのまま付き合っていると、まさに命あつてのものだね、と午前中で退散した。番楽はやれなくなったが獅子舞は続いている。続いている間に番楽を復活させないと絶えてしまう、と心配しながら…。

背中に、「亀田街道祭りにもきてくれ」の声がした。

18日は亀田街道の往時を偲び綺麗に整備された1.3kmの杉並木の道を歩く。集落の人達は老若男女、それぞれ、当時の旅人姿に扮して歩く。途中にある先人供養塔では二人の僧侶が読経。参加者も手を合わせる。それが終わると公民館で、集落総出の演芸大会。美味くて冷たいソーメンを食べてお開き。関係者は直会。私も引つ張り込まれたが、車。悔しいけれど、大盛り上がりの中でウーロン茶5杯。生きた心地しなかった。

それにしても大沢郷は見方によっては桃源郷。強首地区を巻き込めば温泉付。やりようによっては魅力のエリアが出来上がる。しかし、学校がなくなり人が減り、限界集落の危機に怯える。

こんな所、まだ他にもあるのではないかな。